

FIFA（国際サッカー連盟）が主催する女子サッカーワールドカップで、日本代表が初優勝を果たしました。「なでしこジャパン」の愛称で親しまれる女子代表チームが、男女を通じた日本のサッカー史上初めての快挙を成し遂げ、日本国中に勇気と希望を与えました。しかし、そんな「なでしこジャパン」も決して恵まれた環境のもとで優勝したわけではありません。女子サッカーは、学生時代にはチームに所属することは難しく、プロになっても選手はアルバイトをしながらプレーをしています。今回のワールドカップ開催国であるドイツへ発つ際も、空港に集まった報道陣は、わずか10名だったのです。

環境も注目度も粗悪だった「なでしこジャパン」は、なぜ強豪国を次々と破り、優勝できたのでしょうか。おそらく多くの人は、監督を中心としたその家族のようなチームワークを挙げるのではないのでしょうか。

決勝戦前日、対戦相手のアメリカは緊張感に満ちた空気の中で黙々と練習していました。一方「なでしこジャパン」の練習場では、笑い声が響き、見ている方が微笑んでしまうほど明るいムードでした。キャプテンの澤穂希選手は、「このメンバーで勝てなかつたら、いつ勝てる」「この子たちとなら、勝てる」とか思わなかった」とインタビューで答えました。佐々木則夫監督は、優勝直後に「娘たちが頑張った」と語りました。チーム内に生まれたい強い「信頼関係」「結束力」「絆」が、想像を超えたエネルギーを生み出したのでしょうか。『万人幸福の菜』106ページには次のよう

## 苦しい時こそ 笑顔と信頼の花を



にあります。

信は、動いて愛となる。そして、すべてをうるおし、すべてを充たす。信には欠けるところがない。信は成し、信はみたす。

「信は力なり」の信は、信頼の信にもつながり、そこに愛和が生まれ、すべてを結実成就させるのです。これは他人同士が集団をつくり、同じ目標に向かって進んでいく職場にも通じることでしょう。

『万人幸福の菜』99ページに「悲観は、雲である。憂いは霧である」とあります。社長が会社の行く末を心配したり、社員を信頼しなかつたりという不安定な状態であれば、社員の様子は雲や霧に隠れて把握できません。社員はより行き先が分からなくなり、不安になって、ピクピクしながら働くでしょう。そのような集団に信頼感は生まれません。

「隗より始めよ」といわれるように、まずは社長が「うちの社員に任せれば大丈夫」と強い信頼の心を持つことが必要です。すると社員の間にもその心のつながりが生まれ、より強固な人間関係を持った職場となるのです。

技術や戦略だけでは生き残ることができない昨今のような厳しい経済環境では、そこに働く人たちによって命運が分かれます。仲間と力を合わせて笑顔でキビキビと働いているのか、それとも環境に影響を受けて暗く下を向いて働いているのか。

映 木 栗 葉  
「なでしこジャパン」のように、苦しい状況の時こそ仲間との信頼関係を深め、職場を笑顔で満たしましょう。世の中が暗い時だからこそ、人は明るいところに集まるのです。